

全国の倫理法人会で学んでいる倫理経営とは、「純粋倫理に根ざした経営」を指します。経営者が純粋倫理という生活法則を拠りどころとして、トップとしての人間力を高めている場が倫理法人会なのです。「純粋倫理」とは、人が二人以上集まって生活をする時、一人ひとりが守らねばならない基本的なルール・すじみちのことです。宇宙の哲理（大自然の法則）を人間生活に合致させて、人・物・自然を対象として生まれた、日常生活における正しい暮らし方なのです。

純粋倫理の特色とは何か。実践を命にしている。実践の手がかりを「苦難」としている。心のあり方を重視している。この3つがポイントとして挙げられます。『万人幸福の栞（丸山敏雄著）の序文に、「実行によって直ちに正しさが証明できる生活の法則である」とあるように、何より実践が生命線となります。実践とは、実際に行なうことです。行なうことよって初めて自分が変わり、家庭・会社と周囲が変わっていくのです。

S氏は、毎朝三時に起きて、四時から会社周辺の清掃を行なっています。何の見返りも期待しない無心の実践の中で、自分の心が変わっていく道行きを強く感じたと言います。

その実践の高さ・深さに比例して事業が好転していったことは言うまでもありません。家庭や職場などの身近なところで、心境を高め、実践力をつけていくのです。

## 実践の積み重ねが 自己や周囲を変える



絵・わたなべじゅんじ

実践力に磨きをかける一番の手がかりが「苦難」です。苦難は、人を磨き高め、大きく成長させる材料なのです。人をより善くし、より向上させるために訪れるのです。また今までの自分の過ちを気づかせてくれる、非常にありがたい存在でもあります。苦難の原因は自分自身であると反省し、その一つひとつに正対し、苦難を通して気づきや閃きを高めていくのです。

人生で苦しい立場にある時ほど、他人の心の優しさもよくわかるといわれています。さらに人生が閉ざされている時ほど、生き生きと湧き起こるものです。

T氏は、「ピンチこそチャンス」と明るく喜んで迎えようと心がけ、「自分に何かを教えようとして起きているのだ」と前向きかつ肯定的に受け止めて前進しています。成功とは、苦難を通して得られることを実感したのです。

人間は自分の心を磨いていこうと努力しています。人はその人の器以上の人には出会えませんし、また器を越えるような出来事にも遭遇しません。言い換えれば、自分の器を大きくしてレベルを上げない限り、人は成長しないということになります。

心の状態は、その人の動作・行動に必ず現われてきます。動作・行動は、その人の心の状態を知る手がかりとなります。まず「心が先」であるということ、私たちが理解する必要があるでしょう。心を磨き高め、実践への気力を喚起し、そして行動へと転化させていきましょう。